

使用方法

1. 活線状態のブレーカ探査

- ① 分電盤の扉を開け、受信器の先端部を保護カバーの上から
各々のブレーカハンドル部(電源側)に順次当てて下さい。
- ② 判定用LEDが最も多く点滅したブレーカが該当のブレーカです。(ブザーも継続してなります。)

<クランプセンサ使用時>

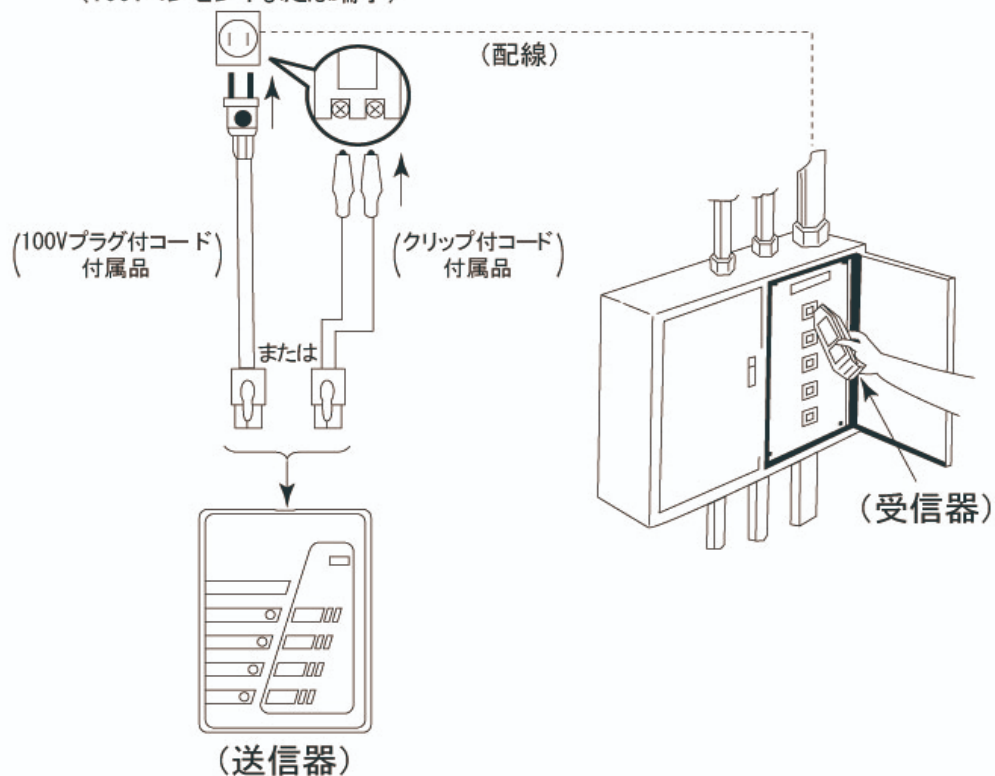
判定用LEDがもっとも多く点滅する電線の近く(主として両隣の電線)で
受信器が若干反応する場合はクランプセンサを使用して探査します。

- ① ブレーカ接続線またはニュートラル線に、クランプセンサをクランプします。

ご注意

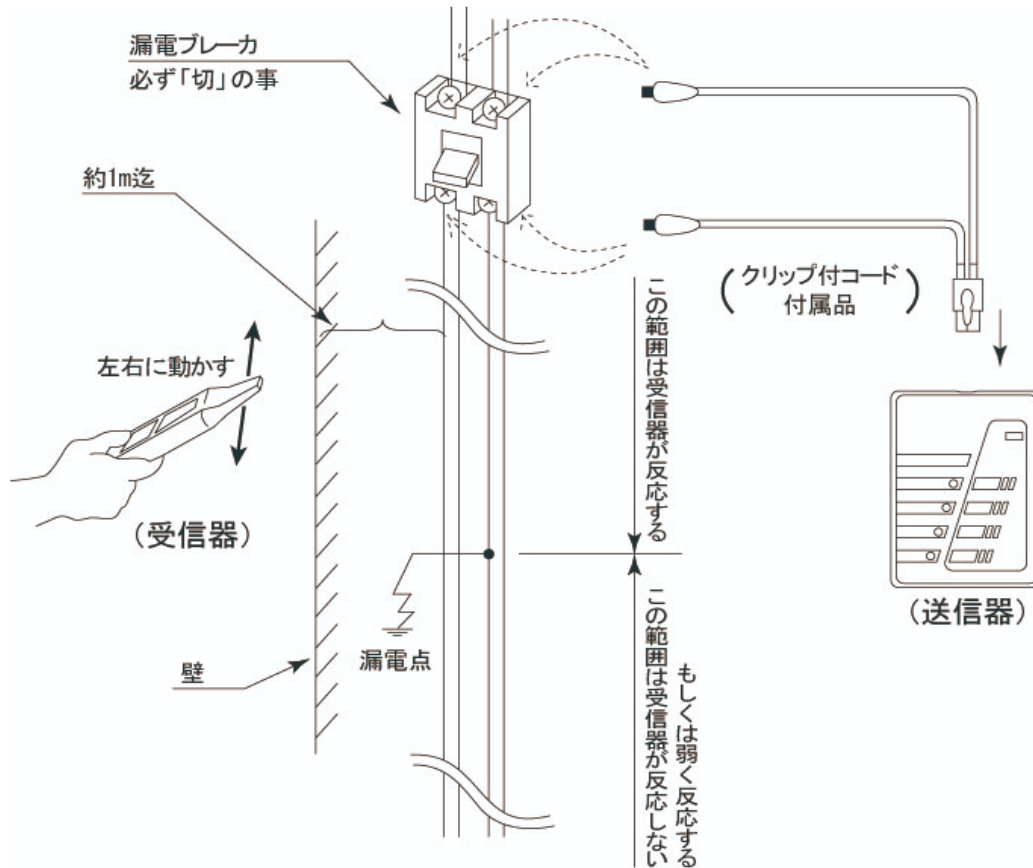
- ・ クランプモードのノイズカット機能は非接触探査よりもHILレベルのノイズカットを行います。
探査時は少なくとも3秒間はクランプして下さい。
- ・ オプションのクランプセンサ(S)は、スライドレバーを引いてクランプします。
- ・ 複数のブレーカで受信器が反応するような場合や、探査回路以外に信号を流したくない場合には、
オプションの信号漏洩防止ユニットを使用する事により確実に探査できます。

(100Vコンセントまたは端子)



2. 死線状態の漏電点探査

- ①漏電が発生しているブレーカを『切』にします。
- ②送信器をブレーカの各相に接続し、動作表示LEDが点滅する相を探し接続します。
漏電している相かどうかの判断は、受信器のモード切替えスイッチを電線に、
感度切替えスイッチをHにして、送信器のリードの1本に受信器を当てます。
判定用LEDが点滅する相が漏電している相です。
- ③埋設線の漏電点探査の場合は、図のように受信器を壁面(または地表面)で
左右に動かしながら、受信器が反応するところを捜し探査を進めます。
反応が弱くなったり、なくなった場所が漏電点です。
- ④機器の漏電点探査の場合は、機器の端子部電線および、アース線で探査します。
機器のアース線で受信器が反応する場合は、機器内部で漏電しています。

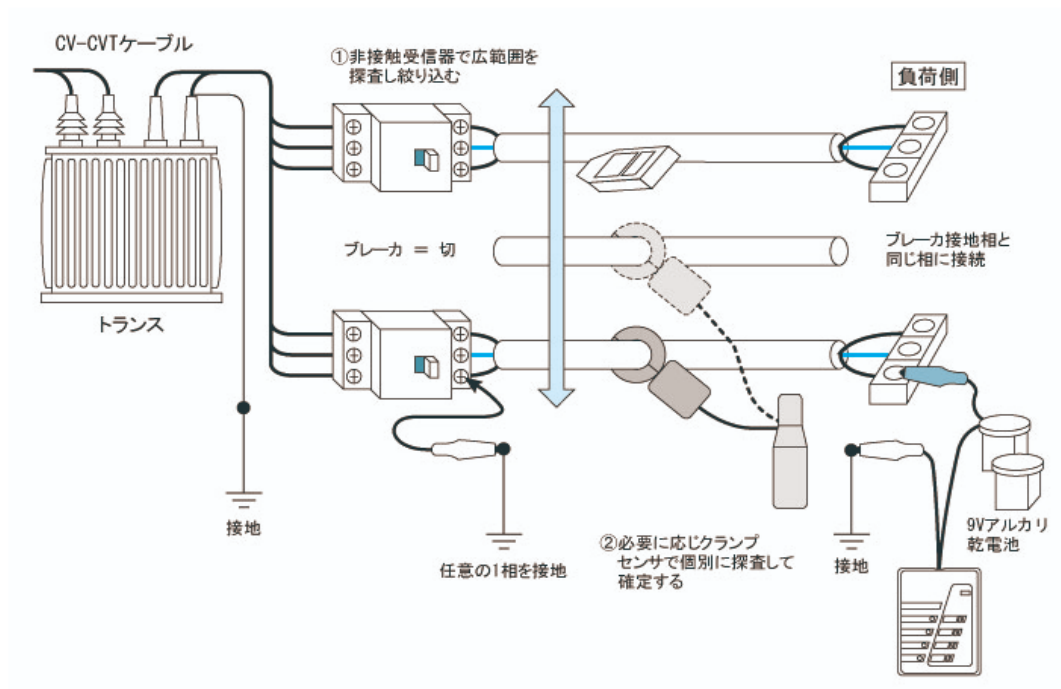


3.死線状態のケーブル探査方法

- ①分電盤の扉を開け、受信器の先端部を保護力バーの上から
各々のブレーカハンドル部(電源側)に順次当てて下さい。
- ②判定用LEDが最も多く点滅したブレーカを『切』にします。
- ③ブレーカ2次側の1相を接地端子に接続します。
- ④送信器に電池クリップ付コードを接続します。
- ⑤電池クリップ付コードに9Vアルカリ乾電池2個を取り付けます。
- ⑥片方のクリップを探索する端子(またはコンセント端子等)に接続します。
- ⑦他方のクリップを接地端子に接続します。
- ⑧送信器の動作表示LEDが点滅することを確認します。
(点滅しない場合は接続相を確認下さい。)
- ⑨受信器で探査します。探査時は、受信器を左右に動かし、
反応を確かめながら探査を進めて下さい。

ご注意

- ・100Ω以下の接地端子に接続して下さい。



4.回路電圧の確認

- ①送信器を電圧チェックしたい端子に接続して下さい。
回路電圧表示LEDが点滅します。
- ②点滅位置の表示電圧を確認して下さい。

ご注意

- ・動作表示LEDが点滅しているにもかかわらず、回路電圧表示LEDが点滅していない時は回路電圧が表示範囲以下、もしくは回路電圧表示回路の故障が考えられます。

